



伊吹山のお花畑
(写真はすべて村瀬忠義さん提供)

滋賀の植物標本・写真展

特集

村瀬忠義植物コレクション

滋賀県の植物について「知ろう」とすると、いろいろな見方がありま
す。たとえば滋賀県で見ることのできる植物にはどんな種類があるの
でしょうか。こんなことについてもかなり詳しくわかってきています。
それでは滋賀県で見ることが出来る植物を大きくグループ分けをし
て、滋賀県ではこういう性質の植物のグループが見られる、と言おう
としたとき、滋賀県の植物のグループ分けはどうすればできるのでし
ょうか。

植物区系という考え方

こんなことを考えるためには、まず前提としてお
く必要がある考え方があります。それは植物は好き
勝手にどこにでも生えているわけではなく、気温や
地質、土壌の湿度などのその生育場所の現在の環境
条件や、過去からの人為、そして地史的な要因など、
さまざまなことが原因でその生育する場所が限られ
ているのです。

滋賀県にはシダ植物と種子植物とをあわせて、2
500種類を超える植物があることがわかっていま
すが、そういう植物の1種1種が、それぞれ固有の
分布範囲を持っています。そしてこのような種類ご
との分布範囲(分布域)を、種類ごとに調べていく
と、非常によく似た分布域をもった植物が、たくさ
んあることがわかってきます。つまり、よく似た環
境に、同じような性質を持った植物が一緒に集まっ

ているということになります。もちろん冬の寒さな
どのある環境を嫌って、結果として同じ範囲に集ま
っている植物ということもあるかもしれませんが、こ
のようなまとまった植物の地理的なまとまりを植物
区系と呼び、その中を細区分したものを植物区と呼
んでいます。

伊吹山植物区の特徴

例えば、非常にわかりやすく有名な例として、伊
吹山のお花畑があげられるでしょう。伊吹山の山頂
付近にはお花畑があり、人気の観光スポットになっ
ています。でもあのお花畑はどういう要因であの場
所に成立しているのか、ということはなかなか難し
いことなのです。

伊吹山の山頂は1377mあり、滋賀県では一番
高い山で、海拔1200mほど以上の場所がいわゆる
お花畑になっています。普通であればこれぐらい

イブキトリカブト(徳蔵山)



の高さの山ではブナ林になるはずなのですが、伊吹
山では森林にはならず、背の低い草原になってお
り、これがお花畑なのです。ここが森林にならずに
草原のままなのは、ちょうど若狭湾から伊勢湾に抜
ける風の通り道になっていて、年中強い風が吹いて
いることと、世界一の深雪の記録があるほどの大雪
が毎年降るためだろうと考えられています。
そして、そういう気候的な要因に加えて、この場
所に見られる植物にはいくつかの特定の性質があり



総括学芸員 布谷 知夫
(博物館学)

博物館の屋外展示で植物の観察会を行う筆者

ます。それはおよそ1万2000年前に最後の氷河期が終わると、広く広がっていた低い温度の場所で生育する植物が、だんだんと北に追いやられ、グンバイフウロの仲間やキンバイソウなどのように高い山の上だけに残ったためと考えられています。そしてもうひとつの大きな要因は、伊吹山周辺は石灰岩地帯であるために、森林にはなりにくく、カルシウムやマグネシウムが多い石灰岩地帯を好むイブキコゴメグサやイチヨウシダなどのような植物が



キンバイソウ (伊吹山)



イチヨウシダ (伊吹山)



イブキコゴメグサ (伊吹山)

多く見られるようになっていくということがあげられます。このように気候と地史と地質が関係して、伊吹山に特有の植物群落を作り上げたということができません。比較的狭い面積ですが、他の場所とは非常に異なる。まとまった植物として伊吹山植物区と捉えることができるのです。

そして、これに加えて、この山だけに見られるルリトラノオのような固有種が見られることや、おそらく古くから加えられたであろう人為、そして織田信長が命じて作らせたといわれている薬草園からの影響など、複雑な要因が絡み合っており、現在の伊吹山のお花畑がつけられているということになります。

琵琶湖沿岸植物区

もうひとつの滋賀県を特徴づける環境は、琵琶湖と周辺の水域です。日本で一番大きな、そして古い湖である琵琶湖と、その周辺の内湖や低湿地の存在は、豊富な水生植物群が見られる理由です。全国的には絶滅危惧種にもなっているナガエミクリやドクゼリなどの水草が比較的普通に見られることや、ネジレモ、サンネンモなどの琵琶湖固有種があること、普通には海岸性の植物といわれているハマヒルガオ、ハマエンドウなどが琵琶湖岸で見られることなど、琵琶湖とその周辺に特有な植物群が見られます。



ヤナギトラノオ (彦根市曾根沼と琵琶湖岸)



ネジレモ (大津市の琵琶湖岸)



ハマヒルガオ群落 (守山市の琵琶湖岸)



ナガエミクリ (知内川)

滋賀県を10の植物区に分けて

このような地域を特徴づける植物群は、広い範囲でどこにどのような種類の植物が見られるかを調査し、証拠になる標本を作り、それらを総合的に見渡しながら分析をする中でわかっていくことなので

滋賀県植物地理区

(原図：村瀬忠義 1979年)

- a ~ g 日本海植物区系
- h ~ j 瀬戸内植物区系



ユキグニミツバツツジ
(マキノ町・三国山)



エドヒガン(湖西)



ノウルシ群落(琵琶湖岸)

す。今回紹介するギャラリー展示では、長く高等学校の教員をしながら植物の採集をし、研究を続けてこられた村瀬忠義さんが採集された植物標本を、同じく村瀬さんが撮影された美しい写真とともに見ていただくことにしています。
村瀬忠義さんは、滋賀県内を植物の大きな区分けとして10に区分けをしておられます。今回のギャラリー

展示では、この10に区分けされた区域ごとに特徴的な植物を紹介し、どこにどのような植物があるかということとともに、全体として滋賀県の植物にはどんな特徴があるのかを見ていただくとともに、植物の美しさや分布の不思議さなどを感じていただけないかと思えます。

ギャラリー展示

滋賀の植物標本・写真展

村瀬忠義植物コレクション

3月9日(水) ~ 4月4日(日) 場所：博物館企画展示室